

臨床リハビリテーション学 (認知症)

《担当者名》○鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryu-uac.jp、中川賀嗣、近藤里美

【概要】

本研究科のディプロマポリシー「高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎」を修得することを目指す科目である。テーマとしては、認知症に関するわが国の対策・対応（リハビリテーション）について系統的に学ぶ（本講義は、日本作業療法士協会「専門作業療法士（認知症；専門基礎）」との単位互換された科目である）。本授業では、認知症の専門基礎に位置付けられる「対象者に応じた適切な評価・治療ができる能力」の獲得を目的として学修する。

【学修目標】

一般目標：我が国の認知症リハビリテーション（主として、作業療法）の現状や認知症の基礎知識、評価方法、および治療について体系的に学び、理解を深めることを目標とする。

行動目標：

1. わが国の認知症作業療法の現状について説明できる。
2. 高齢者の身体・心理・社会的変化について説明できる。
3. 認知症の疫学、歴史、医学的分類について説明できる。
4. 代表的な認知症を呈する疾患について、特有な症候を説明できる。
5. 認知症の画像的解釈について説明できる。
6. 認知症対象者の心理や病理について説明できる。
7. 認知症に関する評価法について説明できる。
8. 薬物的介入についてその効能が説明できる。
9. 非薬物的介入についてその効果・有用性を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	わが国の認知症リハビリテーションの現状	専門職業団体（例；日本作業療法士協会）が目指す認知症対策・対応について学ぶ	鎌田樹寛
2	認知症の基礎知識	老化や老化に伴う身体機能的変化、心理的变化および、ライフサイクルについて学ぶ	鎌田樹寛
3	認知症の基礎知識	認知症の疫学・歴史・医学的分類について学ぶ	鎌田樹寛
4	認知症の基礎知識	老年期に特有な症候（代表的な認知症を呈する疾患）について学ぶ	鎌田樹寛
5	認知症の基礎知識	画像的理解	中川賀嗣
6	認知症の基礎知識	高齢者の心理とその病理1 ・認知症対象者への対応（事例性と疾病性の違い、病期による介入視点の違いなど）について学ぶ	鎌田樹寛
7	認知症の基礎知識	高齢者の心理とその病理2 ・症状の理解や基本的な介入姿勢について学ぶ	鎌田樹寛
8	評価	認知症の評価や評価法について学ぶ	鎌田樹寛
9	評価	リハビリテーション（作業療法効果）を示す評価法について学ぶ	鎌田樹寛
10	評価	研究紹介、紹介評価の実習	鎌田樹寛
11	認知症の治療	薬物療法について学ぶ	中川賀嗣
12	認知症の治療	認知症対象者に実施される非薬物アプローチの概要について学ぶ	鎌田樹寛
13	認知症の治療	手段としての手工芸について学ぶ（手工芸に対する自己効力評価）	鎌田樹寛
14	認知症の治療	手段としての音楽について学ぶ	近藤里美
15	認知症の治療	手段としてのレクリエーションについて学ぶ	鎌田樹寛

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

教科書：特に定めない。適宜資料を配布する。

【参考書】

参考書：必要があれば、講義の中で紹介する。

【学修の準備】

予習では、テーマに関する文献の検索や講読（80分）

復習では、配布資料に関する文献や関連論文の講読（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鎌田樹寛（作業療法士）、中川賀嗣（医師）、近藤里美（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

生活維持期の老人病院や介護老人保健施設における対象者への介入経験に基づきながら、講義を展開する。